

コクマルガラス（カラス科） 全長33センチ

うっすらと雪の積もる田んぼで、数百羽以上の黒い塊が見つかった。

初冬に大陸から渡ってくるミヤマガラスの集団だ。盛んに地面を穿ったり、稲わらや葉っぱをひっくり返しながら餌を探している。

ミヤマガラスの集団は一か所にじっとしていることなく、移動を繰り返します。もしかしてと、群れの端から端まで丁寧に双眼鏡で眺めていたら、コクマルガラスが見つかった。ミヤマガラスより一回り小さく、後頭部から胸、腹にかけて白いのが特徴。希な冬鳥で滅多に見つかりませんが、通称パンダガラスと呼ばれるなど、見た目も可愛い鳥です。



通称パンダガラスと呼ばれるコクマルガラス。

12月10日に見つかった時は、田んぼの中をせわしなく動き回り、なかなか撮影のチャンスが現れませんでした。

4日後、県内に暴風雪警報が出されるなど大荒れの天気となった。そんな中、またしてもミヤマガラスの群れが見つかった。この日は立って歩くのがやっとの強風です。こんな天気では飛ぶのも一苦労でしょう。



盛んに移動しながら餌を探していた。



ミヤマガラスよりやや小さくハトぐらい。

畦道の下に身を寄せながら、強風を凌いでいる塊もいるなど殆ど動き回りません。群れの中に再びコクマルガラスが見つかり、じっくりと撮影できました。



強風に負けないように、じっとこらえていた。



飛び立ちの瞬間。